

提出日：平成 20年11月19日

情報モラル研修会 参加報告書

窪 俊一（東北大学大学院情報科学研究科 准教授）

調査・場所
仙台市立向陽台小学校
日程
2008年11月18日（火）13:30～16:30
参加者
窪 俊一(准教授)・篠澤和久(准教授)・牧野友紀(助教)
目的
仙台市立向陽台小学校で行われた仙台市教育センター主催の「情報モラル研修会」に参加して、小中学校における情報教育の現状を調査するため。
概要および成果
<ul style="list-style-type: none">● 「情報モラル研修会」 2008年11月18日(火) 13:30～ 仙台市立向陽台小学校<ul style="list-style-type: none">・主催:仙台市教育センター、情報教育研究推進委員会・参加者:仙台市の小学校教諭・中学校教諭／情報モラル部会／稲垣忠(東北学院大学准教授)／仙台市教育センター／教育指導課／東北大学大学院情報科学研究科教員3名／東北学院大学学生・内容:(1) 児玉奈美教諭による授業(情報モラル授業)の参観 (2) 情報モラル教育の今後の方向性について(稲垣先生) (3) 授業についての討論 (4) 仙台市の小中校における情報モラル教育の現状についてのディスカッション○ 児玉教諭による2年4組での情報モラル学習の授業は、子供間のコミュニケーションの問題を取り上げた興味深いものであった。書かれた言葉が誤解される状況で、いかにすれば自分の気持ちを表現出来るかを子供たちに考えさせるものであった。子どもに情報モラルを教えることの難しさを実感させるものであった。○ 授業参観後の研究協議では、稲垣先生からの「情報モラル教育の現状と今後」についてのレクチャーの後、授業担当教員も交えて、授業内容についての意見交換が行われた。 今後の情報モラル教育を小学校低学年で行う際の注意点など貴重な示唆が多く得られた。○ 出席された教員の各校における情報教育の現状報告も行われ、小学校よりも中学校における情報教育の困難さが報告された。報道されないトラブルなどに対する対処の現状なども報告された。 仙台市立生田小学校では、職員会議の一部を利用して、学校全体として情報教育について先生自身が少しずつ学習する試みを行っているという事例も報告された。

情報モラル研修会

1 ねらい:情報モラルに関する基礎を学び、日常の指導における実践力の向上を図る。

2 日時・場所:平成20年11月18日(火) 仙台市立向陽台小学校

3 内容・日程

13:15 受付開始

13:30~14:15 授業参観 2年4組 児玉学級

14:30~16:30 研究協議 (2F 多目的室)

①情報教育研究推進委員会, 授業の位置づけについて (三塚)

②本時の授業について

・授業者から(児玉奈美先生)

・参観者から(本時の授業及び各校での情報モラルの取り組み等も含め)

・指導助言(稲垣先生)

③情報モラル教育の今後の方向性について(稲垣先生)

4 参加者:研修会受講者小学校教諭4名, 中学校教諭3名

情報モラル部会 伊藤先生

指導助言:東北学院大学 准教授 稲垣 忠先生

教育センター:小松, 工藤, 三塚

授業参観:指導課 菅原、(東北大学)准教授 窪、篠澤、牧野

東北学院大学 学生2名(今野・遠藤)

計18名

— メモ —

情報モラル学習指導案

日時 平成20年11月18日(火) 5校時

場所 2年4組教室

授業者 児玉 奈美

1. 主題名 来ないから 行ってるよ

2. ねらい (情報モラル指導モデルカリキュラム表)

発信する情報や情報社会での行動に責任を持つ。(a2-1:相手への影響を考えて行動する。)

思いを伝え合う時、その方法によって伝わり方が違ってくるということに気づき、相手への影響を考えて情報を発信しようとする態度を育てる。

3. 実践の背景

(1) ねらいについて

コミュニケーションの方法には、直接会って話す、電話、手紙、電子メールなど様々な形がある。直接会って話す場合や電話では、伝えたい内容と共に声の抑揚や表情で相手に気持ちを伝えることができるが、手紙やメールなど文字媒体だけのコミュニケーションでは伝える側の気持ちやニュアンスがうまく伝わらず、思わぬ行き違いが起こることがある。

低学年の児童は、文字媒体だけのコミュニケーションとはまだほとんどが無縁であるが、面と向かったやりとりでも、うまく気持ちを伝えられずに(受け止められず)トラブルになることが多々ある。

文字媒体だけのコミュニケーションの特性に加え、相手にうまく気持ちを伝えるためには何が大切かを考え、友達とよりよく関わられるようになってほしいと思い、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

引っ込み思案でなかなか自分の思いを伝えられない児童が数人いるが、素直に自己表現できる児童がほとんどで、クラスの雰囲気は明るく休み時間には男女一緒になって元気に遊んでいる。

しかし、そういった遊びやグループでの活動の中でトラブルになることも多く、その都度、お互いに自分の言動を省み、相手の気持ちを考えて解決してきている。

トラブルの原因で「悪口や嫌なことを言われた。」というものの他に、「自分は強く言ったつもりはなかった。(しかし、相手にとってはきつい言い方になってしまった。)」「知らんぷりをされた(相手は違うことに夢中で知らんぷりをしたわけではなかった。)」『ごめんね』って言ったのに(許してくれない。)」など、コミュニケーションスキルの未熟さが原因と考えられるものが多く見受けられる。子供たちは、日常的に自分の意図や思いを伝えることの難しさを感じていると思われる。

(3) 資料について

「来ないから、行ってるよ」

子供たちが、自分の事として考えられるように日常で起こりそうな場面を設定した。

いろいろな受け取り方ができる1つのメモから、文字媒体によるコミュニケーションの特徴について考えることができると思われる。

4. 指導にあたって

思いやりの心をもって伝えようとするのが大切であることを、読みもの資料と役割演技の2つの大きな柱で考えさせたい。

①表情で気持ちを伝える体験をする。

表情だけで自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを想像したりできることを体験する。

②文字媒体だけによるコミュニケーションの特徴について考える。

発信したものが、受信する側によって捉え方が変わる場合があることを知り、相手はどう受け取るかを考えて発信することの大切さに気づく。

③役割演技で「伝わるように伝えること」を練習する。

相手に気持ちを伝えるためには、どんなことに気をつければいいか考え、役割演技で練習する。

5. 資料の概要

①なおや、まり、ゆうすけの3人は、仲良しでいつも一緒に遊んでいる。今日は3人で秘密基地をつくって遊ぶことになり、待ち合わせをする。

②ゆうすけは、一度家に帰って約束の時間までゲームをして待つことにするが、ゲームに夢中になり約束の時間に遅れてしまう。

③待ち合わせの場所になおやとまりの姿はなく「来ないから、行ってるよ」と書かれたメモだけが残されている。

④ゆうすけは、二人が怒っていると思い、そのまま家に帰ってしまう。

⑤翌日、ゆうすけは二人になんと言って謝ろうかと考えながら学校へ行く。すると、なおやとまりが、すまなそうな顔でゆうすけの方へ来て「ごめん…」と謝ってきた。

⑥ゆうすけが驚いて「ぼくのこと、怒ってたんじゃないの？」と聞くと、なおやとまりは「ちがうよ。待ちきれなくて、僕たち、ゆうすけのことおいてけぼりにしちゃったんだ。」と答える。

⑦「怒ってたんじゃないかったんだ。」(ゆうすけは自分の勘違いに気がつく。)

6. 本時の指導過程

	主な学習活動（主な発問・予想される児童の反応）	指導上の留意点
導入	<p>1. 表情で気持ちを伝えるゲームをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> これから、ジェスチャゲームをします。 今日、伝えるものは『気持ち』です。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単だよ。 ・前に上手く伝わらなかったから、今度は頑張ろう。 <p>2. 表情で気持ちが伝わることを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 言葉や声がなくとも、顔を見ると相手の気持ちが分かるね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○5人で1チームになる。表情だけで気持ち（悲しい・怒っている・うれしい）を伝えていく。 ○表情カードを提示し、練習してみる。 ○速さではなく、正しく伝えられるかが大切だということを全員で確認する。 ○表情豊かに伝えようとしていた児童をほめるようにする。 ○正しく伝わらなかったグループには、何が難しかったか聞く。
展開	<p>3. 資料（A～F）を読み、なおやとまりがどんな表情でメモを書いたか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> なおや君とまりちゃんは、どんな顔でこのメモを書いたのでしょうか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・怒っている感じがする。 ・どうしたのかなあって心配してる。 ・遅いからもう待ってられなくて怒っている。 ・ごめんねの気持ちで書いたと思う。 <p>4. 資料の続き（G）を読み、ゆうすけがメモをどのように受け取ったかを知る。</p> <p>5. 資料の続き（H）を読み、ゆうすけの勘違いだったことを知り勘違いが起きた原因を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> なおや君とまりちゃんは怒って書いたつもりはないのに、ゆうすけ君が『怒っている』とってしまったのはなぜでしょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・きれいな字で書いていないから。 ・字だけだと表情が伝わらないから。 ・詳しく書いてないから。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料A～Fを読む。 ○「来ないから、行ってるよ。」のメモで話を一度とめて、なおやとまりの気持ちを想像する。（ワークシート） ○選んだ表情を発表し、その表情に合わせて「来ないから行ってるよ」を声に出してみる。 ○いろいろな意見が出るよう、どの意見も認めてたくさん発表させる。 ○ゆうすけと同じように受け取った人や、違う受け取り方をした人など確認する。 ○メモの実物、ゆうすけの表情、なおきとまりの表情を提示し、メモを通して両者に勘違いが起きたことを明確にする。 ○ワークシートに記入し、本当に伝えたかった気持ちを確認する。 ●待ち合わせに遅れたことや待っていてあげなかったことを捉えている児童には、板書を使ってメモに着目させる。

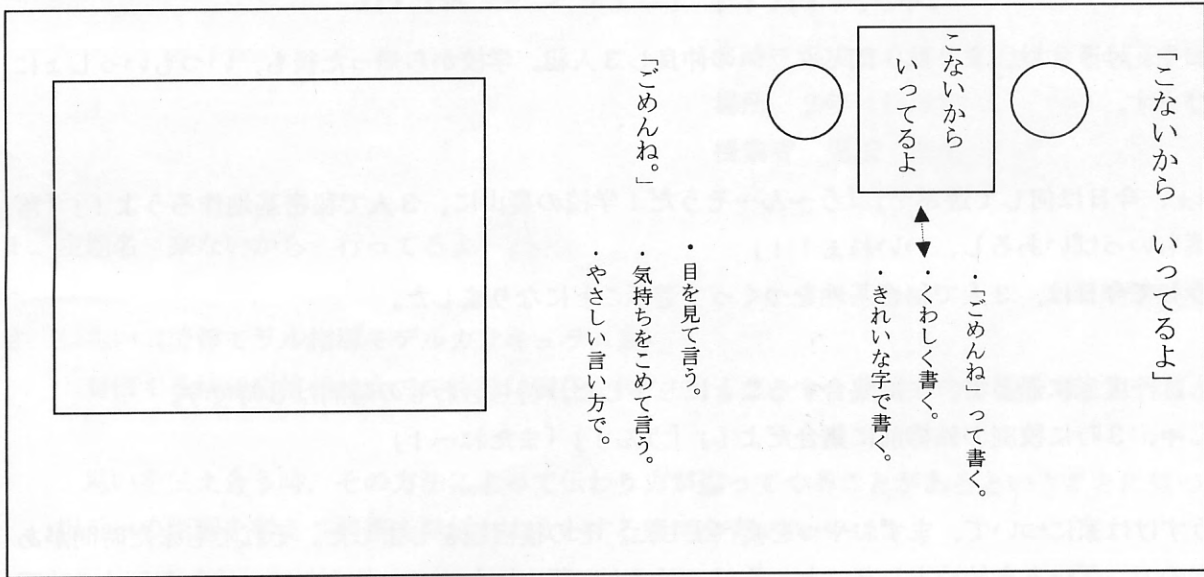
	<p>6. 正しく伝えるためにはどうすれば良かったか考え、ワークシートに書き、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>『ごめんね』の気持ちをきちんと伝えるにはどう書けば良かったのでしょうか。なおや君・まりちゃんになったつもりで書いてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・先に行ってるね。ごめんね。 ・ゆうすけ君、わるいけど行ってるね。ごめんね。 ・先に行って、まってるからね。 <p>7. 直接伝える時に気を付けることを考え、最後の場面の役割演技をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>では、顔を合わせて『ごめんね』をする時はどんなことに気を付ければ良いでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしい言い方をする。 ・顔（目）を見てあやまる。 ・気持ちを込めて言う。 	<p>○発表を板書する。</p> <p>○『ごめんね』の言葉やマークなどで気持ちを表現しようとしているものを取り上げる。</p> <p>○数人に発表させる。</p> <p>○なおや君・まりちゃん側とゆうすけ君側に分かれて役割演技をする。</p> <p>○上手にできている児童に、前で発表させる。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ</p>	<p>8. 感想を書き、学習のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>今日のお話の感想を書きましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・文字だけで伝えるときは、よく考えて書かないといけないと思った。 ・くわしく書かないとうまく伝わらないということが分かった。 ・手紙でも、会って話す時もちゃんとその人のことを考えて書いたり、言ったりしなきゃいけない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>文字で何かを伝える時も、顔を見ながら話す時も、相手のことをよく考えて伝えることが大切なのです。</p> </div>	<p>○思いやりをもって伝えることの大切さについて書いている児童に発表させる。</p> <p>○板書で本時の学習をふり返り、伝え方が違っても相手のことを思いやって伝えることが大切であることを確認する。</p>

感想
1枚1枚

7. 評価

- ・伝え方によって自分の思いが上手く伝わらないことがあること、どんな方法であっても、相手のことを思いやって情報を発信しようとする大切さに気づくことができたか。(ワークシート、発表)

8. 板書計画



9. 準備物

- ・資料「来ないから、行ってるよ」
- ・ワークシート
- ・液晶プロジェクター
- ・メモ
- ・表情カード

資料

- A. なおや、ゆうすけ、まりは、同じクラスの仲良し3人組。学校から帰った後も、いつもいっしょに遊びます。
- B. 「ねえ、今日は何して遊ぶ?」「う〜ん…そうだ!学校の裏山に、3人で秘密基地作ろうよ!」「落ち葉もいっぱいあるし、いいねえ!!」
こうして今日は、3人で秘密基地をつくって遊ぶことになりました。
- C. 3人は一度家に帰って、また集合することにしました。待ち合わせの時間は3時です。
「じゃ、3時に校庭の鉄棒前に集合だよ!」「うん!」「またねー!」
- D. ゆうすけは家について、まずおやつを食べました。その後宿題をしました。それでもまだ時間があったので、ゲームを始めました。ところが…ゲームに夢中になっているうちに、待ち合わせの時間が過ぎてしまいました。
- E. 「わっ!ま、まずい!」ゆうすけは、家を飛び出して待ち合わせの場所へ大急ぎで向かいました。
- F. ゆうすけが待ち合わせの場所に着くと、そこになおや君とまりちゃんはいませんでした。そのかわり、鉄棒に何か残されています。
「なんだろう?」
近づいてみると…

こないから いったるよ

- G. ゆうすけはこう思いました。
「二人とも、ぼくがこないからきつと怒っちゃったんだ…。ううん…。明日、ちゃんとあやまらな
きや。」
- H. つぎの日の朝、
「まだ怒ってるかなあ。なんてあやまろう…。」
ゆうすけがしょんぼり歩いていると、後ろからなおや君とまりちゃんがやってきました。
二人ともなぜか元気がありません。
「おはよう、ゆうすけ。…昨日はごめんな。」
「えっ?」
ゆうすけが驚いていると、まりちゃんも
「ごめんね。ゆうすけのことおいてけぼりにしちゃって…。」

「えっ。二人ともぼくのこと怒ってたんじゃないの?」
「ううん。違うよ!ぼくたちゆうすけに『ごめんね。先に行っちゃうよ!』の気持ちで書いたんだ
よ…。」

情報かわら版

仙台市立生出小学校 No.1 20.9.24

平成 21 年度より新学習指導要領の総則の実施に伴い、情報モラル教育を道徳。特活をはじめ全ての教育活動で「情報モラル教育」に取り掛からなければなりません。今年度、仙台市の特別委員会「情報推進委員」として、“情報モラル教育の職員研修”を伊藤が担当することになりました。2 月に口頭発表・パンフレット作成で市内に発信という役割があります。そこで来年度に向け数回にわたり研修を継続していきます。先生方にはモニターになっていただき、昨年度の校内研修のペア型のときのように、後ほどご意見をお願いいたします。

1 情報モラル教育のキーワード→心と知恵

2 ケータイの課題



- ①大人の目が届かないところで
- ②サイドスレッド(学校裏サイト)での悪口 東北地方のサイト数が多い
- ③3つが渾然としている(被害者にもなる・加害者にもなる・自虐的)
- ④依存症→健康被害
- ⑤マナーの悪さ
- ⑥新しい文化→30 分ルール・・・ビデオ視聴

3 これまでのモラル教育がうまくいかなかったのは

- ①少ない情報で応用力をつける指導が足りなかった(状況はどんどん変わる)
- ②緊急対策
- ③長期的人間教育の意識の欠如
- ④保護者への啓発→学校以外での問題がほとんど

4 大人も分からない

新しい文化なので、ルール・マナー等が大人もあいまい だから一緒に勉強する必要
ケータイを所持させないことでは解決しない。勉強していかなければならない。

強制力あり	人間社会	内省化必要		どこで学ぶか
	ルール		知識	教えなければならないこと・ 社会・技術等の教科学習で
	マナー		思いやり(心)	道徳・国語・特活等
	エチケット		思いやり(心)	
	倫理		思いやり(心)	

なぜそれらのエチケットが必要かを子どもと考えていく。相手意識を育む。

情報かわの版

仙台市立生出小学校 No.2 20.10.27

本日のビデオは「匿名性」の問題です。

子ども達は、ネットへの書き込みは匿名で行えるので、無責任に相手を思いやることなく行いがちです。匿名性はないことを学ぶことのできる内容となっています。

ビデオ開始時刻は、15時27分頃の予定です。15時40分には職員会議を開始します。

本日のキーワード 匿名ではない

<学習指導要領での情報モラルの扱い>

学習指導要領 道徳 解説書 p97～

第5章 道徳の時間の指導

第4節 道徳の時間の指導における配慮とその充実

5 情報モラルに留意した指導

(2)情報も羅津への配慮と道徳の時間

情報モラルに関する指導に付いて、道徳の時間では、その特質を生かした指導の中で配慮が求められる。

指導に際しては、情報モラルにかかわる題材を生かして話合いを深めたり、コンピュータによる疑似体験を授業の一部に取り入れたり、児童の生活体験の中の情報モラルにかかわる体験を想起させたりする工夫などが考えられる。(略)

具体的には、例えば、相手の顔が見えないメールと顔を合わせての会話との違いを理解し、メールなどが相手に与える影響について考えるなど、インターネット等に起因する心のすれ違いなど題材とした指導が考えられる。また、ネット上の法やきまりを守れずに引き起こされた出来事などを題材として授業を進めることも考えられる。その際、その問題の根底にある他者への共感や思いやり、法やきまりのもつ意味などについて児童が考えを深めることができるよう働き掛けることが重要となる。

なお、道徳の時間は、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深めることを通して道徳的実践力を育成する時間であるとの特質を踏まえ、例えば、情報機器の使い方やインターネットの操作、危険回避の方法やその際の行動の具体的な練習を行うことに主眼をおくのではないことに留意する必要がある。

次回のキーワードは 「情報モラルは日常のモラルがベース」とし、ビデオを視聴していただきます。

情報かわの版

仙台市立生出小学校 No.3 20.12.3

本日のビデオは「情報モラルは日常のモラルがベース」の問題です。

ネットだから特別なことではなく、日常のいじめへの対応、生徒指導上の対応となんら変わらない生徒理解で指導し解決したビデオです。とはいいいましても、ネットいじめは、ネット特有の要素があります。

ネット特有の要素

- 加害者が分からない不安がある→クラス全員が犯人に思えることもー
- 24時間, 365日いじめが続く→寝ている間にも起こるので不登校や自殺にもつながることもー
- 教師が対応方法を知らない

ネットいじめの方法

- ・ 学校サイトに悪口を書かれる。
- ・ 掲示板に個人情報を書かれる。
- ・ 送信アドレスを偽装していじめのメールを送りつける。
- ・ 自分のブログやプロフィールサイトのコメントに悪口を書かれる。
- ・ チェーンメールに電話番号など個人情報を書かれる。

困ったことにー

- ★ メールを使ったいじめは、携帯電話に直接届くため見ないわけにはいかない。
- ★ いじめる側は自分のメールアドレスが分かるようなことはしない。匿名メールというサイトを利用すればいくらでもアドレスを偽造できる。
- ★ 悪口が自分のアドレスから届いたり、友達アドレスから届くなども匿名メールを使えば、たった一人で簡単にできる。

学校裏サイトは2種

その1 学校用掲示板サイト（親サイト）の中に、自分の学校の掲示板をつくるタイプ
このタイプは誰でも見ることができる。

その2 一般的な掲示板サイトからつくる単独の掲示板で、どこからもリンクしない。パスワードがかかっていると、それが分からない限り絶対内容を見ることができない。

学校裏サイトの問題

- ①誰でも無料で簡単に作ることができる。
- ②設置と削除を繰り返すので正確な実態を把握するのは難しい。
- ③無料でつくることができる代わりに画面に広告が入り、その多くは出会い系サイトやアダルトサイトで、子ども達は知らずにリンクをクリックして出会い系サイトに誘導されることもある。

次回からは 先生方の基礎知識講座とし、情報社会の中の知識を整理していきましょう。

参考資料

<学習指導要領での情報モラルの扱い>

学習指導要領 道徳 解説書 p 97～

第5章 道徳の時間の指導

第4節 道徳の時間の指導における配慮とその充実

5 情報モラルに留意した指導

(1)情報モラル道徳の内容

情報モラルとは情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度ととらえることができ、その内容としては、個人情報保護、人権侵害、著作権等に対する対応、危険回避やネットワーク上のルール、マナーなどが一般に指摘されている。

道徳の時間においては、第2に示す道徳の内容との関連を踏まえて、例えば、情報モラルに関する題材を生かしたり、情報機器のある環境を生かしたりするなどして指導に留意することが求められる。道徳の内容との関連を考えるならば、例えば、ネット上の書き込みのすれ違いなど他者への思いやりや礼儀の問題及び友人関係の問題、情報を生かすときのきまりの遵守に伴う問題など、多岐にわたっている。特に、情報機器を使用する際には、自分のことを明らかにしなくとも情報のやりとりができるという匿名性に伴って、使い方によっては相手を傷付けるなど、人間関係に負の影響を及ぼすこともある。小学生の段階も少しずつそのような環境の中に入っていく段階であることを押さえて指導上の配慮をしていく必要がある。

各学校においては、児童や地域の実態を踏まえ、指導に際して配慮すべき内容について検討していくことが重要である。

情報かわの版

仙台市立生出小学校 No.4 20.12.3

次回からは、先生方の基礎知識講座とし、情報社会の中の知識を整理していきます。第1号に以下の表を掲載しました。本号からは、日常生活の様々な場面では、どのように考えていけばいいのか、あるいはどう対処していけばいいのか考えていきましょう。

<第1号より抜粋>

—大人も分からない—

新しい文化なので、ルール・マナー等が大人もあいまい だから一緒に勉強する必要 ケータイを所持させないことでは解決しない。勉強していかなければならない。

強制力あり	人間社会	内省化必要		どこで学ぶか
↑	ルール	↓	知識	教えなければならないこと・社会・技術等の教科学習で
	マナー		思いやり(心)	道徳・国語・特活等
	エチケット		思いやり(心)	
	倫理		思いやり(心)	

なぜそれらのエチケットが必要かを子どもと考えていく。相手意識を育む。

さて 問題です。次回まで お考えください。

問題1 ○子さんは、自宅で宿題の解答を求め、インターネットで検索しました。たくさん情報がありすぎて、何から情報を取ったらいいのか迷っています。信頼のできる情報かどうか分かる手がかりはないのでしょうか？



情報かわの版

仙台市立生出小学校 No.5 21.1.

前回の解答として

問題1 情報検索上の問題解決には

以下のような状況を解決・あるいは回避するためにこんな知識が基礎・基本！

No.	状況・課題	回答	備考（関係する法があれば）
1	情報検索で得たものの信頼性はあるのだろうかと疑問を感じたが…。	知識	URL で確認 - 役所関係は go.jp, lg.jp 会社 co.jp 学術 ac.jp 学校 ed.jp
2	無料・お試しの誘いに乗ってしまい、不正請求や注文しない品物が郵送されてきた。	知識	相談窓口：国民生活センター、インターネット消費者被害対策弁護団、経済産業省消費者相談室
3	大人向けのサイトを開いてしまった。	知識	フィルタリングサービス 子どもだけで開かない。大人が近くにいる場所で開く。
4	ネットの情報を信じてお試しで薬を購入した。	ルール 知識	薬物禁止法に触れる薬を購入し服用してしまったら処罰の対象。

参考 前頁の内容は 「ネット社会の歩き方」 前ページの内容を児童と一緒に学習することができます。

ネット社会の歩き方

[キーワード一覧](#) [操作方法](#)

次回は情報発信です。

授業用「学習ユニット」(解説つき)目次

ユニット名	校種	概要	関連URL	ユニット名	校種	概要	関連UR
情報検索				☆10 <u>ネットいじめは人権侵害</u>	小・中・高	■	■
1 <u>Web サイトの情報を活用しよう</u>	小・中・高	■	■	24 <u>ワンクリック不当請求に気をつけて</u>	中・高	■	■
2 <u>こんな Web サイトに気をつけて</u>	小・中・高	■	■	25 <u>ネット上のあぶない出会い</u>	中・高	■	■
3 <u>大人向けの情報に注意</u>	小・中・高	■	■	コミュニケーション			
4 <u>危険な情報に注意</u>	小・中・高	■	■	26 <u>チェーンメールはカット</u>	小・中・高	■	■
情報発信				27 <u>スパムメールは無視</u>	小・中・高	■	■
5 <u>ブログの有効活用</u>	小・中・高	■	■	28 <u>コンピュータウイルスに注意</u>	小・中・高	■	■
6 <u>ネットで悪口は要注意</u>	小・中・高	■	■	29 <u>他人になりすまして(パスワード)</u>	小・中・高	■	■
7 <u>ネットで悪口が罪になる</u>	小・中・高	■	■	30 <u>ネット依存に注意</u>	小・中・高	■	■
8 <u>おもしろ半分では無責任</u>	小・中・高	■	■	消費安全生活			
9 <u>確かな情報を発信しよう</u>	小	■	■	31 <u>フィッシングサイトにつられる</u>	中・高	■	■